

V68a **TMT 計画 – 観測装置計画の現状**

柏川伸成、鈴木竜二、尾崎忍夫、青木和光、臼田知史、高遠徳尚、児玉忠恭、家正則、高見英樹、山下卓也、橋本哲也、宮下隆明、神津昭仁(国立天文台)、秋山正幸(東北大)、本田充彦(神奈川大)、松尾太郎、岩室史英(京大)ほか

TMT (Thirty Meter Telescope) は、日本が国際協力で実現を目指している次世代の地上超大型望遠鏡である。TMT の観測装置の検討状況について報告する。2005 年から 2006 年にかけて 12 の装置実現可能性の検討を行い、3 つの「ファーストライト装置」と 6 つの「将来装置」が設定された。このうちファーストライト装置と呼ばれるのは、IRIS(近赤外撮像分光装置)、WFOS(広視野可視分光装置)、IRMS(近赤外多天体分光器) の 3 台である。このうち日本国内においては IRIS と WFOS について、国際協力のもとで国立天文台/先端技術センターを中心に設計/開発活動が行われている。独自の設計に基づき、日本が主導して開発/製作を行う将来装置についても、国内の大学を中心に主に 4 つのグループが検討を続けている。両者とも、すばるの装置開発から継続される技術と経験を TMT に活かす絶好の機会となっている。圧倒的な空間分解能や大集光力を活かした高分散機能など TMT のユニークな特徴を活かすべく装置検討とそれを用いたキーサイエンスの策定を行っている。本講演では、TMT 観測所の運用方針案についても紹介し、コミュニティからの意見を伺いたい。